

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 4 月 19 日 (2007.4.19)

【公開番号】特開 2004-270699(P2004-270699A)
 【公開日】平成 16 年 9 月 30 日 (2004.9.30)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-038
 【出願番号】特願 2004-61535(P2004-61535)
 【国際特許分類】

F 0 1 D 5/22 (2006.01)

F 0 1 D 11/08 (2006.01)

F 1 6 J 15/447 (2006.01)

【F I】

F 0 1 D 5/22

F 0 1 D 11/08

F 1 6 J 15/447

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 3 月 2 日 (2007.3.2)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 2】

一般的にバケットカバーは、タービンバケット又はブレードの半径方向外側先端に結合されて、該ブレードの振動を減衰させかつ該ブレードの捻れを防止する。バケットカバーはまた、ラビリンスシール歯のようなシール装置と協働して、バケット先端を通り抜けるガス又は蒸気の漏洩を最小にする。一般的に、バケットカバーは、バケットの先端に取付けられた小さくかつ平坦な均一厚さのプレートを含み、該プレートは、バケット先端上のテノン（ほぞ）をカバーの開口部内に受け、次いで該テノンの先端を変形させて該カバーを所定の位置に固定することにより取付けられる。例えば蒸気タービンの低圧セクションにおける一部のタービン段においては、バケット先端が、水平面に対し傾斜している。しかしながら、ロータが、タービンラビリンス歯の固定仕切り壁に対して軸方向に移動するために、傾斜したバケット先端上の均一厚さのカバーは、ほぼ水平方向に配向されたラビリンス歯との相互作用に利用可能な表面積が減少し、従って、先端漏洩損失が増大することになる。一部のタービン段においては、この設計は、バケットカバー自体に付加的なシール歯を設けることを必要とするが、この構成にしても先端漏洩損失を十分減少できないばかりでなく、他のタービン段との間でのシール構成の共通化が損なわれることとなる。

【特許文献 1】米国特許第 5267834 号明細書
 【特許文献 2】米国特許第 5393200 号明細書
 【特許文献 3】米国特許第 5445498 号明細書
 【特許文献 4】米国特許第 5509784 号明細書
 【特許文献 5】米国特許第 5890873 号明細書
 【特許文献 6】米国特許第 6036437 号明細書
 【特許文献 7】米国特許第 6139019 号明細書
 【特許文献 8】米国特許第 6363612 号明細書
 【特許文献 9】米国特許第 6454534 号明細書